

平成23年度 一般会計事業報告書

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

岩手県畜産振興会

本県の畜産は農業産出額構成比の過半を占める基幹部門であり、加えて畜産物加工業等関連産業も多く地域経済の維持発展の主要な原動力となっている。

このことを踏まえ、本会が引き続き本県畜産の主産地形成と維持発展の一翼を担っていくため、岩手県が定めるいわて県民計画、酪農及び肉用牛生産近代化計画、家畜及び鶏の改良増殖計画及び農協等生産者団体が進める諸対策について、関係機関・団体と緊密な連携のもとで、以下に掲げる事項を重点に、当協会の総力を結集して推進し、本県の畜産振興に寄与した。

特にも、福島第一原子力発電所事故に起因しての牛の出荷停止や自粛、枝肉価格の低下による肉用牛肥育経営等での資金繰りの悪化に対応し、肉用牛肥育経営緊急支援事業等により緊急支援金等を迅速に交付したほか、肉用牛肥育経営安定特別対策事業による補填金を四半期毎から月毎に改め交付するなど経営安定への支援に努めた。

重点的に推進した事項

- 1 認定農業者等主業型経営体を対象とした経営診断・経営技術指導及び最新技術情報の提供・研修会の開催。
- 2 家畜防疫等家畜衛生対策の推進。
- 3 東北ブロック生乳検査業務の円滑な推進。
- 4 家畜自衛防疫事業、家畜登録（乳用牛・豚）事業、家畜人工授精用精液流通調整事業、生乳検査事業、肉用牛肥育経営安定特別対策事業、優良繁殖雌牛更新促進事業等の実施に伴う各種情報等の効率的活用。
- 5 本県肉用牛の改良増殖及びいわて肉用牛増頭運動等生産振興に寄与。
- 6 肉用牛肥育経営緊急支援金の交付等による経営安定支援。

I 独自事業

企画調整事業

- 1) 「岩手の畜産」発行事業 (1,296千円)
畜産に関する情報、経営管理技術・家畜衛生等の情報資料を掲載した「岩手の畜産」を発行し、畜産関係指導機関・団体及び主な経営診断農家等に配布した。
(隔月奇数月 1,700部発行)
- 2) 職員技術研修事業 (314千円)
関係機関・団体が行う先進的な研修会等に本会職員を派遣し、知識・技術の向上を図った。
研修会、講習会…6回・11人
- 3) 畜産技術指導促進事業 (186千円)
地域研修会や会議等へ参加し、一般畜産指導を行った。
会議…13回・18人、研修会…6回・7人、指導…5回・9人
- 4) 北海道・東北畜産協会職員研修事業 (103千円)
北海道・東北ブロック畜産協会職員研修に参加し、畜産に関する知識・技術の習得並びに諸情報の交換を行った。
開催場所…宮城県蔵王町・白石市、開催日…10月27日(木)～28日(金)
参加者…8名
- 5) 養豚動向調査事業 (4千円)
需要に見合った豚肉生産の推進、施策の立案に資するため、養豚生産者を対象に飼養戸数・頭数調査(平成23年8月1日現在)を実施した。
飼養戸数…149戸、子取り用雌豚頭数…43,246頭
- 6) 岩手競馬支援特別対策事業 (296千円)
本県の畜産振興を図るうえで、地方競馬全国協会の畜産振興補助事業は重要かつ不可欠であるが、地方競馬は、全国的に低調で畜産振興補助事業の更なる縮小が懸念されることから、地方公営競馬を支援するため、盛岡競馬場・水沢競馬場において、次の事業を実施した。
 - (1) 冠レースへの会長賞授与…2回
ゴールデンステッキ賞(11月27日盛岡競馬場)、師走賞(12月10日水沢競馬場)
 - (2) 岩手競馬ファン感謝サービスの実施…1回
12月10日水沢競馬場で畜産加工品を無料配布(700個)
 - (3) 畜産物等の消費宣伝
岩手競馬ファン感謝サービスに合わせて、畜産品の展示販売を実施。

II 補助事業

1 農林水産省補助事業

- 1) 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業 (2,461千円-預かり補助金32,432千円)

死亡牛の適正な処理並びに円滑なBSE検査を実施するため、死亡牛の収集・輸送及び化製処理に要する費用に対して助成した。

(1) 地方事業推進…死亡牛整理票の配布

(2) 支払対象農家数、頭数…1,346戸、3,336頭

2) 家畜改良推進事業〔生涯生産性向上対策〕（預かり補助金2,000千円）

生涯生産性等の評価に必要な乳用牛の体型データ等を収集し、酪農家が目指す経営方針に適した牛群の整備を推進した。

体型データ等の収集及び指導に要した経費への補助

体型等のデータ収集頭数…800頭

2 岩手県補助事業

1) 家畜共進会開催事業（814千円－うち県 400千円）

平成23年8月1日付けで原子力災害対策特別措置法第20条第3項に基づく「牛の出荷制限の指示」が本県にだされたことから種畜の部については開催を中止し、肉牛の部をもって、県下一円を対象とした第55回岩手県畜産共進会を開催した。

	開催日	出品頭数	開催場所
黒毛和種の部	}	「出荷制限の指示」により、開催中止	
ホルスタイン種の部			
日本短角種の部			
馬の部			
肉牛の部	平成23年10月22日	80頭	(株)岩手畜産流通センター

2) 肉用牛肥育経営等緊急支援事業（512,952千円）

福島第一原子力発電所事故に起因しての肉用牛の出荷の停止や自粛等による資金繰りの悪化に対応し、出荷遅延支援金を交付し、肉用牛肥育経営等の安定を支援した。

(1) 出荷遅延支援金交付実績

① 肥育（事業対象者25人、事業対象牛858頭、金額486,400千円）

ア 肉専用種…事業対象牛118頭、金額 94,200千円

イ 交雑種…事業対象牛740頭、金額392,200千円

② 酪農・肉用牛繁殖（事業対象者64人、事業対象牛181頭、金額25,340千円）

ア 廃用牛…事業対象牛181頭、金額25,340千円

(2) 事業推進

調査指導を行い、事業の円滑な推進を図った。

調査指導回数…2回

3) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業（岩手県・盛岡市・久慈市・二戸市・岩泉町・新岩手農協・岩手中央農協－1,000千円）

会議の開催、調査指導等を行い、事業の適正かつ円滑な推進を図った。

(1) 会議の開催…1回

- (2) 調査指導・・・農協等の業務委託先の巡回指導
- (3) 普及啓発

3 地方競馬全国協会補助事業

1) 馬の改良増殖奨励事業 (1,250千円)

農用馬の生産及び優良種雄馬の維持活用を図るため、飼養者または管理者に対して奨励金を交付した。

(1) 優良種雄馬繁殖奨励 [種付け奨励]

家畜改良増殖法に基づく種畜証明書の交付を受け、年間の種付け頭数が、純粋種にあつては1頭以上、純粋種以外にあつては概ね10頭以上の農用雌馬に種付けした種雄馬飼養管理者に対し奨励金を交付した。

種雄馬・・・7頭、種付け頭数・・・62頭、奨励金交付・・・403,000円

(2) 子馬生産奨励 [生産奨励]

農用馬の生産拡大を積極的に誘導して生産意欲の高揚を図るため、農用種雌馬を飼養し、子馬を生産して日本馬事協会の種馬登録規程に基づく血統登録を受けた飼養者に対して奨励金を交付した。

奨励金交付頭数・・・39頭、奨励金交付額・・・837,000円

2) 地域畜産支援指導等体制強化事業 (14,816千円)

国・県の畜産振興施策を補完し、地域における総合的な見地から地域畜産振興を推進するため、技術指導に要する経費の補助を受け、畜産の担い手育成や畜産に対する理解増進等以下の取組を行った。

(1) 畜産の担い手育成・確保・増強に向けた体制強化

① 畜産生産基盤育成強化

ア 対象者：個別支援・・・213戸、地域支援・・・地域セミナー10ヶ所×1回

イ 内容：個別支援・・・県内の畜産農家（乳用牛、肉用牛、養豚、肉用鶏経営）の畜産コンサルタントを実施した。

地域支援・・・県内の畜産農家を対象とした地域セミナーを10回開催した。

② 乳質改善推進

ア 対象者：県下一円の酪農経営体

イ 内容：岩手県乳質改善協議会並びにJA、農業改良普及センター等と連携し、乳質改善のデータ収集を行うとともに、改善を必要とする農家の搾乳機器の診断を実施した。

ミルクングシステム診断341基、バルククーラー点検309基

③ 乳用牛群検定推進

ア 対象者：県下一円の牛群検定加入酪農経営体

イ 内容：乳用牛の検定成績を県内加入組合にフィードバックし、繁殖成績及び能力の向上のための指導を行った。

- ④ 養豚動向調査
- ア 対象者：県内の養豚生産者
- イ 内容：肉豚生産の推進、施策の立案に資するため、関係機関の協力を得て、飼養戸数・頭数調査を実施した。
市町村…34ヶ所、広域振興局…9ヶ所
- ⑤ 畜産技術指導促進
- ア 対象者：畜産農家及び関係機関・団体
- イ 内容：地域研修会や会議等へ参加し、一般畜産技術指導を行った。
会議…13回・18人、研修会…6回・7人、指導…5回・9人
- (2) 地域畜産に対する理解増進等畜産関連公益活動の体制強化
- ① 岩手県畜産共進会の開催
- ア 対象者：県下一円の消費者、生産者
- イ 内容：共進会（肉牛の部）を開催し、家畜改良増殖の促進と畜産農家相互の技術研鑽を図るとともに、畜産に対する理解増進に努めた。
- ② 広域広報活動（「岩手の畜産」の発行）
- ア 対象者：経営診断農家、畜産関係機関・団体
- イ 内容：畜産に関する情報、経営管理技術、家畜衛生等の情報資料を掲載し、隔月奇数月の年6回（各1,700部）作成・配布した。
- ③ 畜産協会のPR
- ア 対象者：JA、市町村、来客、業務用他
- イ 内容：「社団法人岩手県畜産協会の概要」を500部作成、協会の取組を広く紹介し畜産に対する理解増進を図った。
- (3) 地域畜産の活性化推進体制の強化
- ① 家畜生産農場清浄化促進
- ア 対象者：県内一円の牛飼養農家及び発生農場
- イ 内容：岩手県牛ヨーネ病発生農場清浄化促進対策協議会のもと、牛ヨーネ病発生農場の同居牛の淘汰等に対し助成し、牛ヨーネ病の発生予防、まん延防止、早期清浄化を促進した。
- ② 地域家畜共進会の開催支援
- ア 対象者：市町村、JA、同志会等
- イ 内容：各地域における家畜共進会の開催を支援し、畜産の活性化を図った。
- (4) 馬事・畜産の普及啓発の推進体制の強化
- 地域畜産普及啓発事業
- ア 対象者：競馬ファン 700名
- イ 内容：平成23年12月10日、独自事業として水沢競馬場において畜産フェアを開催し、先着入場者に対し畜産物加工品の無料配布を行い、競馬ファンの集客に努めるとともに馬事・畜産の普及啓発、畜産物の消費

宣伝を行った。

4 農畜産業振興機構補助事業

1) 家畜防疫互助基金造成等支援事業 (3,218千円)

口蹄疫、豚コレラ等の海外悪性伝染病が発生した場合の影響を緩和し、経営の再建を支援する互助基金制度について、家畜飼養者への周知を図り、基金への加入を促進した。

また、宮崎県での口蹄疫発生により基金が枯渇したことから、年度途中において、生産者積立金の積み戻しを行った。

(1) 地方推進会議・・・3回

(2) 加入戸数及び頭数

乳用牛 1,120戸、 46,540頭 (戸数加入率85.5%、頭数加入率99.2%)

肉用牛 5,572戸、 99,446頭 (戸数加入率81.2%、頭数加入率91.2%)

豚 80戸、 345,449頭 (戸数加入率54.8%、頭数加入率71.1%)

(注) 1. 加入率のベースとなる飼養戸数・頭数は農林水産省畜産統計。

2. 加入頭数は、各経営体での最大飼養見込頭数。

2) 肉用牛経営安定対策補完事業 [地域における肉用牛生産基盤強化等対策]

(5,958千円－預かり補助金46,022千円)

肉用牛生産基盤強化対策、地域の特色ある肉用牛振興対策等肉用牛に係る経営安定対策を補完する取り組みに対し、奨励金及び補助金を交付した。

(1) 肉用牛生産基盤強化対策

① 中核的担い手育成増頭推進

計画的に繁殖雌牛を増頭した中核的担い手に対し、増頭実績に応じ奨励金を交付した。

実施団体数・・・7農協、交付頭数・・・25頭

② 肉用牛ヘルパー推進

肉用牛生産の労働負担の軽減を図るため、傷病時等の肉用牛ヘルパー作業を実施した肉用牛ヘルパー利用組合に対しヘルパー活動に要した経費を補助した。

実施団体数・・・6組合

③ 肉用牛振興推進指導

①から②の事業を円滑に実施するための会議の開催、事業の調査指導等を実施した。

会議開催・・・1回、肉用牛ヘルパーの実態調査・・・11組合

調査指導回数・・・26回

(2) 地域の特色のある肉用牛振興対策

① 地方特定品種等の振興

生産者集団等が、地方特定品種の維持強化を図るため実施した次の取組に対し

て補助した。

ア 低コスト肉用牛生産促進：実施団体数…17集団

イ 計画出荷対策：実施団体数…1農協、交付頭数…589頭

② 山振地域における肉用牛振興

生産者集団等が、山振地域における肉用牛振興のために実施した次の取組に対して補助した。

ア 優良子牛適正出荷推進：実施団体数…3農協、交付頭数…2,433頭

③ 地域の特色ある肉用牛生産推進指導

①から②の事業を円滑に実施するための会議の開催、事業の調査指導等を実施した。

会議開催…1回、調査指導回数…6回

3) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業〔肥育経営安定推進〕 (12,889千円)

肉用牛肥育経営の安定を図るため、肉用牛肥育経営の収益性が悪化した時に肥育牛補填金を交付するための肉用牛肥育経営安定特別基金（肥育安定基金）の造成と補填金交付に係る事務を円滑に推進した。

(1) 県内推進会議の開催…1回

(2) 事務委託先への現地調査・指導…8回

(3) 肥育牛個体登録から補填金交付に係る事務

(4) 事務委託先への個体識別技術料の支払…12ヶ所、3,427千円

4) 肉用牛肥育経営緊急支援事業 (2,183,730千円)

福島第一原子力発電所事故に起因しての牛の出荷停止や自粛、枝肉価格の低下による資金繰りの悪化に対応し、緊急支援金等を交付し、肉用牛肥育経営の安定を支援した。

(1) 肥育農家緊急対策事業

緊急支援金交付（対象者281人、対象牛27,966頭、支援金額1,398,300千円）

① 肉専用種…対象牛16,579頭、支援金額828,950千円

② 交雑種…対象牛 8,828頭、支援金額441,400千円

③ 乳用種…対象牛 2,559頭、支援金額127,950千円

(2) 出荷遅延対策事業

出荷遅延支援金交付（対象者35人、対象牛898頭、支援金額570,070千円）

① 肉専用種…対象牛390頭、支援金額312,000千円

② 日本短角種…対象牛 63頭、支援金額 33,980千円

③ 交雑種…対象牛396頭、支援金額209,880千円

④ 乳用種…対象牛 49頭、支援金額 14,210千円

(3) 肥育牛出荷対策事業

① 廃棄支援金交付（対象者1人、対象牛1頭、支援金額820千円）

ア 肉専用種…対象牛1頭、支援金額820千円

② 価格低下支援金交付（対象者61人、対象牛1,760頭、支援金額214,540千円）

ア 肉専用種…対象牛908頭、支援金額100,390千円

イ 交雑種…対象牛741頭、支援金額106,580千円

ウ 乳用種…対象牛111頭、支援金額 7,570千円

5) 酪農経営安定対策補完事業〔牛群検定システム高度化支援事業〕

(49千円－預かり補助金14,060千円)

乳中尿素窒素データ、ボディコンディションスコア（BCS）等のデータの収集及び指導を実施し、飼養管理技術の向上と受胎率低下等の繁殖障害・疾病の改善を図った。

- (1) 生乳品質改善計画の策定並びに純タンパク含量に関するデータ収集及び酪農家への指導に要した経費への補助…14検定組合
- (2) 飼養管理改善計画の策定並びにBCS等のデータ収集及び酪農家への指導に要した経費への補助…14検定組合

5 中央畜産会補助事業

1) 育成馬予防接種推進事業 (121千円)

馬伝染性疾病の予防接種を計画的に実施し、発生予防に努めた。

- (1) 対象疾病・頭数…日本脳炎 27頭、三種混合 36頭、馬インフルエンザ 13頭
- (2) 対象地域…遠野市
- (3) 対象馬…軽種馬、乗用馬、農用馬 延べ76頭

2) 馬インフルエンザ等自衛防疫推進事業 (365千円)

乗用馬等（競走馬を除く）のワクチン接種を支援し、馬インフルエンザの発生防止を図った。

ワクチン接種頭数…93頭

3) 馬飼養衛生管理特別対策事業 (286千円)

馬の飼養衛生に関する調査及び普及啓発事業を実施した。

- (1) 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催…1回
- (2) 馬飼養衛生管理技術講習会の開催…1回（23名）
- (3) 地域馬獣医療実態調査…57戸

4) 組織強化対策事業 (126千円)

家畜伝染性疾病の発生・流行防止対策を効果的に推進するため自衛防疫推進会議を開催した。

推進会議…5回

5) 畜産特別資金推進指導事業 (3,214千円)

畜産経営指導機関、関係金融機関、生産者団体などで構成する畜産特別資金岩手県支援推進協議会を開催し、統一的な指導方針の策定を行い、関係機関、団体協調のもと畜産特別資金借受者に対する指導を行った。

- (1) 畜産特別資金岩手県支援推進協議会の開催…委員会1回、幹事・指導班員会議2回
- (2) 融資機関への指導助言…22ヶ所

- (3) 借受者への改善計画達成指導・・・53戸（内訳：大家畜資金対象者15戸、改善支援資金対象者38戸）
- (4) その他推進指導（全国会議、地方審査会等）
 - 全国会議1回、地方審査会2回
- (5) 経営改善のための指導資料作成・配布（中央畜産会作成資料、経営データ分析資料等）
 - 協議会構成団体・融資機関・資金借受農家等への資料配付・・・2回
- (6) 借受者の進捗状況・実績点検調査
 - 進捗状況調査・・・1回、実績点検調査・・・2回（上期、下期）
- (7) 借受者に対する濃密指導
 - 経営データの調査、経営データ分析結果の説明・・・借入者6名（酪農4名、肉牛2名）

6 全国肉用牛振興基金協会補助事業

家畜・生産用資材等情報収集・提供ネットワーク体制構築事業（27千円）

飼料等の生産用資材の供給可能数量や家畜の一時避難受入可能場所等の情報をデータベース化し、緊急時における生産用資材等の情報提供、斡旋を円滑に実施するためのネットワーク体制を構築した。

- (1) 普及啓発（協力要請104ヶ所、本会ホームページへの掲載1回）
- (2) 情報収集、情報提供台帳申込書の作成・・・2件

7 畜産経営支援協議会補助事業

民間グループ被災地畜産農家救援活動事業〔被災地畜産振興に係る人的支援等事業のうち生産者団体支援〕（3,470千円）

福島第一原子力発電所事故の発生以降に収集された高濃度の放射性セシウムを含む稲わらが給与された肉用牛から、食品衛生法上の暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されたことに伴い、被災を受けた肉用牛農家に対し肉用牛肥育経営緊急支援事業に係る緊急支援金等の交付及び返還業務を行った。

- (1) 全国会議への出席・・・2回
- (2) 県内推進会議の開催・・・3回
- (3) 緊急支援金等の交付
- (4) 交付された緊急支援金等の返還業務の実施
- (5) 農協等への巡回指導・・・8回、17ヶ所

Ⅲ 受託事業

1 岩手県受託事業

1) 畜産生産基盤育成強化事業（5,731千円）

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営を確立するため、経営支援指導を実施した。

- (1) 畜産経営体支援指導研究会
委員会の開催… 1回
 - (2) 畜産経営技術の総合支援指導
 - ① 個別支援指導…延べ213件
畜産経営体に対する個別指導により畜産経営技術の高度化を図った。
 - ア 経営診断に基づく改善指導…21件
経営分析による問題点の把握とその改善のための指導を行った。
 - イ 経営管理技術指導…68件
経営管理技術の高度化を図るため、経営分析手法を用いて損益計算書、貸借対照表等の財務諸表を作成するための巡回指導を行った。
 - ウ 生産技術指導…61件
生産技術の高度化を図るためのワンポイント指導を行った。
 - エ フォローアップ指導…63件
畜産経営体に対する各種の助言、指導内容の定着を図るため、定期的な巡回指導を行った。
 - ② 地域支援指導…地域セミナーの開催 10回
経営技術の高度化及び畜産をめぐる諸情勢等をテーマとして、畜産経営体等を対象とした地域セミナーを開催した。
 - (3) 畜産経営関係情報のホームページによる提供
畜産経営に関する情報をデータベース化し、リアルタイムに情報提供を行った。
- 2) 乳用牛群検定情報分析センター機能向上事業 (767千円)
乳用牛群検定普及定着化事業で得られた情報データを集積及び分析し、情報提供・指導を実施した。(対象：14検定組合)
- (1) 情報データを集積及び分析し、成績書として取りまとめ配布した。
 - (2) 各検定組合への巡回指導を実施した。(14検定組合×1回)
- 2 中央畜産会受託事業
- 1) 褐毛和種生産費調査事業 (80千円)
肉用牛経営の発展に資するため、地方特定品種(褐毛和種)の生産費等生産実態を調査した。
 - (1) 調査農家…褐毛和種繁殖経営 1戸
 - (2) 調査対象期間…平成22年4月1日から平成23年3月31日までの1年間
 - 2) 乳用種初生牛生産費調査事業 (360千円)
畜産振興施策の基礎資料に資するため、乳用種初生牛の生産費等生産実態を調査した。
 - (1) 調査農家…酪農経営20戸
 - (2) 調査対象期間…平成22年4月1日から平成23年3月31日までの1年間
 - 3) 公庫資金活用推進事業〔農業経営サポート事業〕(500千円)

日本政策金融公庫資金を借り入れしている畜産経営体を対象に、借入後の経営フォロー指導を行った。

指導件数…5戸（酪農3戸、肉牛1戸、乳肉複合1戸）の畜産経営体

4) 畜産関係団体調整機能強化事業（251千円）

盛岡競馬場において、岩手競馬ファン大感謝祭を開催、先着700名に畜産物加工品を配布し、岩手競馬を側面的に支援した。

5) 動産担保融資活用体制整備事業（1,284千円）

動産担保融資活用システムを活用した管理手法の確立のため、地域推進委員会を設置し、資金調達手法に係る課題及び効率的な情報提供等について検討した。

また、動産担保融資活用システムの試験運用のための、モデル農家の月次データの処理、モニタリング情報作成、データのフィードバック等を行った。

(1) 地域推進委員会の開催…2回

(2) モニタリングの期間…平成23年7月～平成24年1月の7ヶ月間

(3) モニタリング情報作成…酪農経営1戸、肉用牛肥育経営1戸

6) 図書支援事業（575千円）

中央畜産会が発行した月刊誌「畜産コンサルタント」及び畜産に関する書籍を斡旋配付し、畜産の知識・技術の普及啓発を行った。

年間販売実績…月刊誌594冊、書籍7冊

3 畜産近代化リース協会受託事業

畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業（1,010千円）

畜産近代化リース協会が貸し付けした施設・機械の物件確認と管理状況の調査及び適正な利用方法について技術指導を実施した。

また、新たな貸付者の開拓のため、リース制度のPRに努めた。

1) 対象物件確認基数…68基

2) 対象農家数…61戸

3) 調査項目

(1) 貸付契約書の保管状況

(2) 対象機械の機種・製造番号等の確認

(3) 物件の契約状況

(4) 施設の保守管理状況

(5) 物件の稼働状況

4) 新規開拓のための事業推進

全農岩手県本部が開催する家畜市場でのPR活動…14回

4 日本政策金融公庫受託事業

日本政策金融公庫資金（農林水産事業）活用推進事業（100千円）

公庫資金の活用を推進するため、畜産経営体への公庫資金の情報提供等を行った。
(3回)

IV 負担金事業

1 肉用牛肥育経営安定特別対策事業〔生産者手数料〕(独自-17,632千円)

肉用牛肥育経営安定特別対策事業を遂行するために必要な経費の一部について、受益者である契約生産者から事務費負担金(実費相当額を限度)として生産者手数料を徴収し、事業を円滑に推進した。

- 1) 協会の推進事務費
- 2) 事務委託先の推進事務費

2 ミルキングシステム診断事業(独自-5,384千円)

乳房炎の発生予防並びに乳質の向上のため、県内酪農家の搾乳機械の作動状況・保守点検・搾乳方法について診断指導を実施した。

- 1) 対象農協数…6農協
- 2) 診断戸数…ミルキングシステム診断341戸、バルククーラー点検309戸
- 3) 実施基数…ミルキングシステム診断341基、バルククーラー点検309基

平成23年度 家畜人工授精用精液流通調整事業 事業報告書

県内の大家畜飼養者に対し、本会が指定するサブセンターを通じて家畜人工授精用精液等を安定的に供給し、もって本県の家畜改良増殖の推進に寄与した。

なお、凍結精液分譲本数は、乳用牛は後継牛の確保のため性判別精液が伸びたが、肉用牛はF₁用精液の減少等により前年度を下回った。

- 1 凍結精液分譲本数……121,142本
乳用牛……45,868本（37.9%） 肉用牛……75,274本（62.1%）
- 2 受精卵分譲本数……274本
乳用牛……26本 肉用牛……248本
- 3 液体窒素供給量……53,849kg
- 4 受胎調査報告等会議の開催……1回
 - 1) 出席者……20名（受胎調査員14名他）
 - 2) 受胎率（平成22年度授精分）……乳用牛42.8%、肉用牛62.4%
- 5 サブセンター家畜人工授精担当者県外研修
 - 1) 参加者……10名（人工授精担当者7名他）
 - 2) 研修先……三重県松阪市 第62回松阪肉牛共進会
愛知県半田市 知多大動物病院
同 酪農家
愛知県岡崎市（社）家畜改良事業団 東海近畿事業所
- 6 サブセンター家畜人工授精担当者会議の開催……1回
参加者……44名（人工授精担当者27名、関係機関・団体等17名）
- 7 家畜改良に関する情報の提供……86回
凍結精液等の供給業務において情報誌の配布や情報交換等の実施

平成23年度 肉用牛肥育経営安定特別対策事業 事業報告書

肉用牛肥育経営は、素牛の導入から肥育牛の出荷まで一定期間を要し、かつ、生産費に占める素畜費の割合が大きいことから、素畜価格と枝肉価格の水準によっては大幅な収益性の悪化が懸念される。

このため、契約生産者の積立金、独立行政法人農畜産業振興機構からの補助金をもって肉用牛肥育経営安定特別基金（肥育安定基金）を造成し、肥育牛1頭当たりの四半期（月）平均粗収益が四半期（月）平均生産費を下回った場合に、契約肥育牛を当該四半期（月）に販売した者に対し、肥育牛補填金を交付し、肉用牛肥育経営の安定を図った。

なお、東日本大震災のり災証明書の発行を受けた契約生産者について、特別措置として生産者積立金の免除を実施した。

また、福島第一原子力発電所事故の影響により、肉用牛肥育経営の収益性が悪化したことから、平成23年7月販売分以降、補填金の毎月交付を行った。

- 1 契約生産者数……462戸
- 2 事務委託先数……12ヶ所

[事務委託先詳細：順不同]

全国農業協同組合連合会岩手県本部	岩手江刺農業協同組合
(社)岩手県配合飼料価格安定基金協会	岩手南農業協同組合
新岩手農業協同組合	いわい東農業協同組合
花巻農業協同組合	大船渡市農業協同組合
岩手中央農業協同組合	岩手中央酪農業協同組合
岩手ふるさと農業協同組合	岩手県畜産農業協同組合

3 基金の造成及び補填金交付実績

1) 肥育安定基金造成実績（平成23年1月～平成24年1月）

生産者積立金及び農畜産業振興機構補助金の肥育安定基金造成実績は以下のとおり。

(単位：頭、円)

品種区分	区分	頭数	単価 (生産者積立金)	肥育安定基金造成負担区分		合計
				生産者積立金	機構補助金	
肉専用種	H 22年度	3,841	20,000	76,820,000	230,460,000	307,280,000
	H22年度免除	638	20,000	0	38,280,000	38,280,000
	H 23年度	12,276	13,000	159,588,000	478,764,000	638,352,000
	H23年度免除	2,234	13,000	0	87,126,000	87,126,000
	小計	18,989	—	236,408,000	834,630,000	1,071,038,000
交雑種	H 22年度	1,556	27,800	43,256,800	129,770,400	173,027,200
	H 23年度	4,663	25,000	116,575,000	349,725,000	466,300,000
	小計	6,219	—	159,831,800	479,495,400	639,327,200
乳用種	H 22年度	837	15,000	12,555,000	37,665,000	50,220,000
	H 23年度	2,475	18,000	44,550,000	133,650,000	178,200,000
	小計	3,312	—	57,105,000	171,315,000	228,420,000
合計	H 22年度	6,234	—	132,631,800	397,895,400	530,527,200
	H22年度免除	638	—	0	38,280,000	38,280,000
	H 23年度	19,414	—	320,713,000	962,139,000	1,282,852,000
	H23年度免除	2,234	—	0	87,126,000	87,126,000
	合計	28,520	—	453,344,800	1,485,440,400	1,938,785,200

※平成22年度肉専用種免除牛に係る生産者積立金（12,760,000円）は、一旦基金造成後、契約生産者へ返戻したことから、基金造成実績から除外している。

平成23年度 日本短角種肥育経営安定特別対策事業 事業報告書

岩手県、市町及び農業協同組合からの補助金等をもって日本短角種肥育経営安定特別基金を造成し、日本短角種肥育経営の収益性が悪化したときに補填金を交付し、もって経営の安定と日本短角種牛肉の安定供給を図った。

- 1 対象生産者数……28戸
- 2 対象肥育牛……753頭
- 3 基金の造成及び補填金交付実績

1) 基金造成実績

区 分	戸数 (人)	頭数 (頭)	単価 (円)	補助金等 (円)
岩手県	28	753	20,000	15,060,000
盛岡市	5	31	10,000	310,000
久慈市	15	366	10,000	3,660,000
二戸市	1	76	10,000	760,000
岩泉町	7	280	10,000	2,800,000
新岩手農業協同組合	27	747	10,000	7,470,000
岩手中央農業協同組合	1	6	10,000	60,000
合 計	28	753	-	30,120,000

※合計欄の戸数、頭数は実数

2) 補填金交付実績 (平成23年4月～平成23年12月販売分)

区 分	品種区分	交付対象		補填金額	
		人数 (人)	頭数 ① (頭)	補填金単価 ② (円/頭)	補填金交付額 ③=①×② (円)
平成23年度 第1四半期 (4～6月)	盛岡市	3	5	16,800	84,000
	久慈市	14	64	16,800	1,075,200
	二戸市	1	18	16,800	302,400
	岩泉町	7	77	16,800	1,293,600
	合 計	25	164	-	2,755,200

平成23年度 優良繁殖雌牛更新促進事業 事業報告書

国から補助金の交付を受け基金を造成し、計画に基づき、低能力の繁殖雌牛を淘汰した肉用牛繁殖農家に対して優良繁殖雌牛の貸付等を行う農協等に、優良繁殖雌牛の導入費用の一部を基金より助成した。

また、事業を円滑に推進するため、関係機関等と事業実施農協に対して指導を実施した。

なお、平成23年度末で事業終了となることから、農林水産省に基金残額を返還するため、平成24年3月31日をもって基金を閉鎖した。

基金期首残高…418,579,850円（利子を含む）

基金期末残高……………0円

- 1 平成23年度更新頭数…209頭
- 2 平成23年度更新支援額…34,556,000円

平成23年度 家畜登録事業 事業報告書

2023年7月

家畜改良による能力向上を図り生産基盤確保と所得向上のため、関係機関・団体の協力のもと、乳用牛並びに豚の血統登録・登記等家畜登録事業を実施した。

なお、登録取扱件数は、豚は伸びたが、乳用牛は平成22年度の猛暑の影響による授精適期の遅れ等により、前年度を下回った。

1 家畜登録取扱件数

1) 乳用牛……6,917件（前年度比91.3%）

- (1) 血統登録……4,474件（前年度比85.2%）
- (2) 牛群審査……1,000件（前年度比119.6%）
- (3) 検定成績……452件（前年度比84.9%）
- (4) 移動他……991件（前年度比103.2%）

2) 豚……4,805件（前年度比106.1%）

- (1) 子豚登記……2,338件（前年度比116.8%）
- (2) 移動他……1,672件（前年度比117.0%）
- (3) 種豚登録……657件（前年度比105.9%）
- (4) 指定証明……138件（前年度比28.9%）

〈明 細〉

指定種豚場	4 農場、	黒豚生産農場	2 農場
衛生管理優秀養豚場	4 農場、	海外合成豚原々種豚場	2 農場
系統維持施設証明指定	2 農場		

2 研修会及び会議出席

1) 東北地区登録委員研修会（ホルスタイン種）

- (1) 開催月日……平成23年7月28日～29日
- (2) 開催場所……青森県野辺地町
- (3) 出席者……本県受講者11名

2) 夏期登録担当者会議（ホルスタイン種）

- (1) 開催月日……平成23年7月28日～29日
- (2) 開催場所……青森県野辺地町
- (3) 出席者……本県受講者1名（本会）

3) 冬期登録事務担当者会議（ホルスタイン種）

- (1) 開催月日……平成24年2月2日
- (2) 開催場所……東京都中野区
- (3) 出席者……本県受講者1名（本会）

平成23年度 家畜自衛防疫事業 事業報告書

家畜伝染性疾病の発生予防並びにまん延防止を図るため、次の事業を実施した。

1 ヨーネ病防疫推進対策 (1,196千円)

飼養者が自主的に行うヨーネ病同居牛等の淘汰の円滑な推進を図り、ヨーネ病まん延防止、早期清浄化を促進した。

対象戸数、頭数…5戸、5頭

2 オーエスキー病清浄化推進対策 (5,179千円)

清浄種豚の流通促進を図るため、種豚生産農場の出荷予定豚の抗体検査を実施した。

対象戸数、頭数…7戸、4,342頭

3 発生・流行防止対策 (238,376千円)

牛及び豚の特定疾病の流行防止のため、組織的な予防接種の推進を図った。

なお、平成22年度に県内でアカバネ病の流行の兆しがみられたことから、アカバネ病ワクチンの接種率の向上を重点に推進した結果、接種頭数は前年度より17,340頭増加し、流行の阻止が図られた。

1) 牛五種混合（生）予防接種…30,632頭

2) 牛五種混合（不活化）予防接種…6,027頭

（牛六種混合（生・不活化）ワクチンで代替した2,716頭を含む。）

3) アカバネ病予防接種…54,817頭

4) 牛ヘモフィルス予防接種…26,540頭

5) 豚丹毒（生）予防接種…190,501頭

6) 豚丹毒（不活化）予防接種…86,783頭

4 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業 (1,131千円)

対象疾病の発生農場における清浄化対策に要する経費の一部を助成した。

1) 補助件数…15件

2) 対象疾病…ヨーネ病、サルモネラ症、ウイルス性下痢・粘膜病、クロストリジウム感染症

平成23年度 生乳検査事業 事業報告書

東北生乳販売農業協同組合連合会及び東北地区の農業協同組合、牛群検定組合等から委託又は依頼された生乳について検査を実施した。

なお、検査対象乳量、検査件数は、東日本大震災や福島第一原子力発電所事故の影響により、前年度を下回った。

- 1 取引試料乳検査（検査対象乳量 565,023,516.6kg、前年度比96.9%）
 - 1) 配分検査試料乳（成分及び体細胞数検査） 75,132件（前年度比 96.4%）
配分検査試料乳（細菌数検査） 75,003件（前年度比 96.5%）
 - 2) 集乳及び配送試料乳検査 46,941件（前年度比 89.2%）

- 2 牛群検定試料乳検査 562,041件（前年度比 98.6%）

- 3 依頼試料乳検査
 - 1) 成分及び体細胞数検査 29,754件（前年度比 81.6%）
 - 2) 細菌数検査 16,533件（前年度比109.3%）

4 外部精度管理

（財）日本乳業技術協会が生乳検査施設を対象に実施する技能試験を受け、脂肪率、無脂乳固形分率、体細胞数の精度の維持と検査技術の向上を図った。（4回）

※検査項目

- ・成分検査……脂肪率、乳蛋白質率、乳糖率、無脂乳固形分率、全固形分率、乳中尿素態窒素。ただし、集乳及び配送試料乳については、脂肪率、無脂乳固形分率の2項目。
- ・体細胞数検査
- ・細菌数検査